

数値目標を掲げています。男性は長時間労働を頑張る中で、育児もそこそこ頑張っている。男性はもつと育児に関わりたいたいけどなかなかできない、というのが現実ではないでしょうか。

パパのワーク・ライフ・バランス

最後に、男性のWLBで大事な点を三点あげてみます。一つ目は働き方を変えるということ。二つ目はタイムマネージメント（時間あたりの生産性を高める時間管理）の意識を持つということ。三つ目は、日頃から職場でコミュニケーションをとり、信頼関係や協力関係をつくっておくこと。三つのう

ちで、三番目が一番大事です。制度として男性は育児休業を取れますが、職場風土として育児休業を取りづらなのは、コミュニケーション不足によって生じることもあると思っています。具体的には「今度、子どもが生まれるので、生まれたら育児休業を取りたい」等と、上司や同僚に何気なく話しておくことです。仕事面では、日頃から「お互い様」の意識を持って、自分が抜けた時の仕事を引き継いでもらえるようコミュニケーションをとっておく。その土台があって初めて、育児休業を取ろうとした時に「わかった、協力するよ」という状態になるのではないかと思います。



▲「さんだフレッシュパパのための子育てハンドブック」より引用

育メン社会保険労務士2人による、いまどきの共働き世帯の実情についての対談

育児休業について

石井：男性の育児休業の取得率が1・89%という数字がありました。私の妻の出産の時は妻が実家へ帰っていたので育児休業は取りませんでした。職場へ復帰する時に子どもを思うように預けられなくて大変という話を聞きますので、その時に育児休業をとるかどうかが分かりますが、サポートしていききたいと思っています。

三谷：私は育児休業を取っていませんが、子どもが3人生まれるまで勤めていた会社の短時間勤務制度を利用しました。所定労働時間を2時間短縮できる制度です。子どもが病気になるまで迎えるに行かなければならぬ時や、保育園へ迎えに行く時などに利用しました。従業員の多い会社だったので、男性で育児休業を取る人はいませんでした。し、そもそも私自身が育児休業を取るという選択は頭の中にあいりませんでした。

保育園について

石井：私の子は10月生まれなので1歳になる10月から保育園に入れたらと思っっているのですが、定員が決まっているので入れるかどうか不安です。三谷さんの



お子さんたちはスムーズに保育園に入れましたか？保育園への送迎をされていて何か気づいたことはありますか？

三谷：上の2人はスムーズに同じ保育園に入ることができました。一番下の子はその保育園が満員になってしまったので、妻が勤務している病院の院内保育に預けています。妻が夜勤の時私ですべて送迎をします。2力所回るといいます。



▲左：三谷文夫さん 右：石井一成さん

産後クライシスとは？

三谷：WLBの話と関連して、最近気になる言葉がありました。それは「産後クライシス」なんです。石井：「産後クライシス」とは「出産後から妻の夫に対する愛情が急速に冷え込む現象」のことをいいます。中には出産後1年余りで離婚に至る夫婦もあるそうです。こういうことが起きてしまう原因として、出産後の妻の身体的、精神的、社会的な危機を夫が理解せず家事や育児に協力しないことがあげられます。

この「産後クライシス」を防ぐための夫婦の対策は、まず一つ目は「イクメンもどき」にならない。ゴミ出しの例でいえば、玄関に置いてあるゴミをゴミ捨て場に持っていくだけではなく、家中のゴミを集めることから始めてみましょう。

二つ目は家事・育児に主体性を持つ。「手伝おうか」という言葉は、家事・育児は自分の仕事ではないという心理が垣間見えてしまうので使わないほうがいいようです。三つ目は育児休業を取ってみる。これは男性にはハードルが高いと思いますが、例えば妻の産後1週間の身体が大変な時に短期間でも育児休業を取ってサポートしたり、上の子の育児をするなどの協力をして、出産後の危機を乗り越えていきたいと思います。

共働きについて

石井：三谷さんは共働きをされていますが、一番大変だと感じること何ですか？

三谷：妻の勤務体系に合わせて、私の仕事の予定を入れたいといけないところがあります。制限、制約の中で仕事をすることは難しいと感じることがあります。

編集後記

男性の育児休業の取得率や家事等の時間が、なかなか改善されない原因の一つとして、「男性が家事・育児をするなんて、会社や近所の人たちに言にくい」という気持ちがあるのではないのでしょうか？

育児休業を取得された人に聞くと、「家事や子育ての大変さがわかり、今まで以上に家事・育児をしていく」と思った。「子どもとゆっくり向き合える時間が持て、子どもへの愛情が今以上に強くなった。」「気持ち

